

確かな日本語力が人との信頼関係に欠かせない ～ 高等専門学校で日本語検定を活用 ～



独立行政法人国立高等専門学校機構
大島商船高等専門学校
准教授 牛見真博先生

本校は、山口県東部の周防大島に位置する5年制の高等教育機関で、商船学科・電子機械工学科・情報工学科の3学科があります。卒業後は、大学3年次編入や本校専攻科への進学者もいますが、それぞれの学科で学んだ専門知識を生かすべく、技術者として就職する学生が多く、卒業生は各方面で活躍しています。

必修や選択の国語関係の授業を通して、理系や技術職の職場だからこそ日本語を的確に運用できることは、周囲から信頼されるパスポートのようなものであると意識づけを行っています。その際、日本語検定の内容は社会人として必要な、文法・敬語・語彙・表記など、実社会、実生活の中で求められる日本語の運用能力を高める上で効果的であると感じています。

特に、4・5年生対象の選択科目「日本語学」の授業では、日本語検定を意識した学習内容も取り入れられています。学生にとってよくある気づきが、いわゆるアルバイト先で正しいと思っただけ使っていた敬語の誤用や、ら抜き言葉の多用などです。また、手紙やメールによる具体的な場面設定における言葉遣い、パソコンによる文章作成時の誤字・脱字など、実社会や実生活

の中で役に立つと実感できることが、学ぶ意欲にもつながっているようです。日本語の運用次第で、周囲に信頼されるきっかけにも、逆に信頼を損ねるきっかけにもなり得ること、また言葉は人と人をつなぐ最も身近なツールであるため、疎かにしないことの大切さを折に触れて伝えるよう心掛けていきます。

学生一人一人の意欲的な取組もあって、平成29年度は団体優秀賞（東京書籍賞）を受賞するなど、学生の努力が目に見える形で評価されたことを嬉しく思っています。日本語の的確な運用は、学生が社会に出た時にその活躍を下支えする土台として彼らの力になってくれるはずであり、その動機付けの一つとしても日本語検定を活用していきたいと考えています。